

ゲデ・パンランゴ国立公園へ ようこそ！

ゲデ・パンランゴ国立公園はインドネシアの自然保護の歴史、また生物多様性において、非常に重要なポジションに位置しています。ジャカルタからわずか100km、21,975haの広大な美しい自然の原生林は、1980年にインドネシアで初めての国立公園として指定されました。

この熱帯多雨林のジャングルは樹高50mを超えるラサマラ、世界最大の花ラフレシアや食虫植物ウツボカズラ、美しい野生ラン、まだ解明されていない光るキノコなど珍しい植物のほかに、子供の頃に図鑑で見た憧れのコーカサス・オオカブトムシ、全身を硬い鱗に覆われたセンザンコウ、また絶滅の危機に瀕しているジャワテナガザルやヒョウ、ジャワクマタカなどの希少動物に出くわすかも知れません。ハイキングを通じインドネシアのジャングルの動植物達の驚くべき生態を垣間見るチャンスとなります。

また、避暑地として週末のチボダス・ゲートは国立公園H.Q.に隣接するチボダス植物園やパサール(土日市)が沿道に立ち並び、周辺の畑で取れた新鮮で安価な野菜やフルーツ、またお土産を求める日帰り客で賑わいます。

普段とは一味違う、贅沢な休日にはゲデ・パンランゴ国立公園の素晴らしい環境の下、自然と一体となってその静寂に身を任せてみてください。生態系が織り成す優れた自然の芸術を「感じ」、「学ぶ」ことができるはずです。

私たちはこのかけがえのない自然の遺産を後世に残し、自然の与えてくれた貴重な贈り物を皆さんと分かち合いたいのです。



ゲデ山頂からの遠景(2,958m)

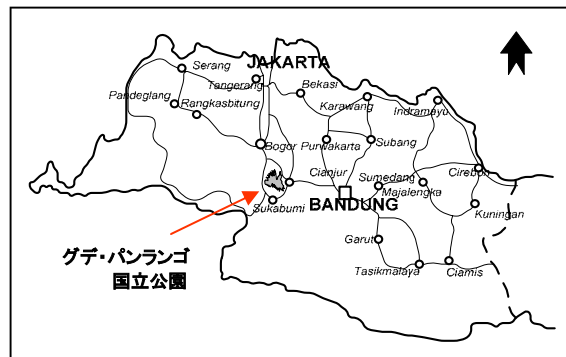
ゲデ・パンランゴ国立公園へのアクセス

車を利用する場合は、ジャカルタから高速道路に入りポゴール方面へ。高速道路出口ガドッグ(Gadog)を出てブンチャック/バンドゥン方面に向かいます。ブンチャック峠を越えて7.6km、アウトレット「DSE」の先の三叉路を右折し(左手に国立公園の看板あり)、直進3kmでチボダス観光地区の入場ゲートに着くので入場料を払います(乗用車Rp. 3,000、入場料Rp. 1,000)。

左手にチボダス植物園を見ながらさらに直進した右側、マンダラワンギ(Mandalawangi)駐車場の隣が国立公園管理事務所です。パーキングは公園管理事務所の駐車場が無料で利用できます。

バスを利用する場合はジャカルタからブンチャックを経由するバスに乗り、チボダスで降ります。そこからは黄色いミニバスが頻繁に国立公園まで走っています(Rp. 2,000)。

国立公園事務所からチボダス登山道入口まではチボダス植物園とゴルフ場の脇の砂利道を徒歩で500mです。



Take nothing
but photographs!
Leave nothing
but footprints!

Taman Nasional Gunung Gede Pangrango
Jl.Raya Cibodas Po.Box 3 Sdl
Cipanas—Cianjur 43253, INDONESIA

公園事務所受付時間

月曜日 - 木曜日	07:30 - 15:30
金曜日	07:30 - 14:30
土・日曜日	08:00 - 14:00

Phone / Fax: 0263-512776
E-mail : eegashira@yahoo.co.jp
Website : <http://www.tngp.or.id>

ゲデ・パンランゴ国立公園
ハイキング・インフォメーション

Hiking to Cibeureum Triple Waterfalls



“By far the most interesting incident in my visit to Java was a trip to the summit of the Pangerango and Gedeh Mountains...”
Alfred Russel Wallace .1861

ゲデ・パンランゴ国立公園

インドネシア、西ジャワ州

チブルウムの滝 ハイキング・コース

片道 2.8 km / 1.5 時間

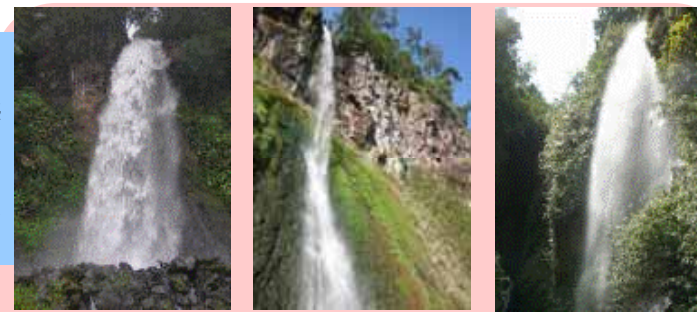
コース地図上の数字は、コース沿いに100mごとに設けられている標識に対応しています。

この周辺は火山性の地質の影響で、水はミネラルを豊富に含みます。また、水中に生える藻の仲間が時期によって変色し、池の色が赤、緑、青色に見えます。運がよければ、カウウソが遊ぶ姿を見ることができます。

木を揺さぶる大きな音がしたら静かに目を凝らしてみよう。オナガザルの群れが木の葉や実を食べながら移動しているかもしれません。稀に、絶滅危惧種であるジャワテナガザルの灰色で尾のない姿も見ることができます。

チブルウム・トリプルフォールでは、左からチクドゥル滝、チデンデン滝、チブルウム滝が連なり、その絶えることない豊富な水量からグデ・パンランゴ国立公園が近隣の水資源の涵養地として機能していることをまじかに感じることができます。“チブルウム”とはスンダ語で赤い水を意味し、滝の周辺に自生する赤苔 (*Sphagnum gedeanum*) に由来します。トイレ、休憩所があり、週末には多くの来訪者で賑わいます。ゴミ箱は設置していませんので、ゴミの持ち帰りをお願いします。

視界の開けたガヨンゴン湿原からはうっそうと茂る森の全景とパングランゴ山を目の前に望むことができます。景色を楽しみながらボード・ウォークをのんびりと歩いて下さい。



チクドゥルの滝

チデンデンの滝

チブルウムの滝

巨大な鳥の巣のような形をした植物はその名も「Bird's nest fern」。日本では屋久島などに見られるオオタニワタリに近い着生シダ植物です。他の木に着生し、その大きく広げた葉で落ちてくる木の葉や水を受け止めて自身の栄養とします。年中湿度の高いTNGPでは非常にサイズが大きく育ち、その若葉は茹でて食べられます。

訪問に適した時期

公園を訪れるのに最も適した時期は5月から10月の乾季です。11月から4月にかけては雨季ですが、生き生きとした本来の熱帯多雨林の表情を見ることができます。年間を通し午前中は天候が安定しています。ただし、1～2月は非常に雨が多く、風も強いために倒木や落雷に注意が必要です。

インタープリテーション

もっと詳しくグデ・パンランゴ国立公園の自然を知り、親しみたい人には、パーク・レンジャーやボランティアによるインタープリテーション(自然解説)の利用をオススメします。料金は Rp.75,000.-で入園時にお申し込み頂けます。

持ち物

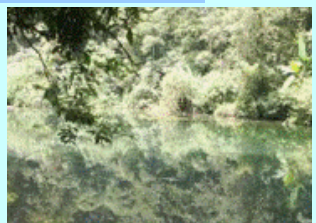
標高が高いためとても涼しく、特に雨が多い地域なので、雨具や履きなれた靴の用意をしてください。飲み物やゴミ袋も忘れずに！

チブルウムの滝までの料金

入園料 Rp. 20,000.- (外国人)
Rp. 2,000.- (国内人)

保険料 Rp. 500.-

*これらの収入は国立公園の管理に使用されます。
*KTP、KITASの保有者は国内人料金の適用を受けられます。



⑥ サルの仲間



⑦ トランペット・フラワー



⑩ 着生シダ



登山道入口で料金を払います。チブルウム滝までの道のりにはトイレがないので、出発前にここで済ましておきましょう。インフォメーション・センターでは公園に関する簡単な案内が展示してあります。



公園管理事務所のビジターセンターでは、展示物のほかに無料の自然解説を行っています。また、日本語・英語による国立公園ビデオの上映も行っています。国立公園の魅力さをさらに凝縮したガイドブックも購入できます。

ジャムジュ(Jamuju)の木はTNGPでは珍しいマキ科の針葉樹です。TNGPの森林はブルー・レイクを過ぎた辺りを境にサブ・モントーン林からモントーン林に移行しますが、ジャムジュはプスバ(Puspa)と並んでモントーン林を代表する巨木です。スンダ語ではKi Putri(王女の木)と呼ばれています。

地面に翼のように根を広げる“板根”。樹上を見上げるとカリフラワーのような形のラサマラ(Rasamara)の木、その樹高は60mにも達します。落ちてくる葉を拾ってその匂いを嗅いでみてください。ラサマラの葉は非常に香りが強く、地元の人は生で、あるいは天ぷらのようにしてその若葉を食べます。

